【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成18年4月27日(2006.4.27)

【公表番号】特表2005-506394(P2005-506394A)
【公表日】平成17年3月3日(2005.3.3)
【年通号数】公開・登録公報2005-009
【出願番号】特願2002-568654(P2002-568654)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｊ　5/24　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　3/18　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　5/28　(2006.01)
Ｃ０９Ｊ　7/02　(2006.01)
Ｃ０９Ｊ 163/00　(2006.01)
Ｃ０９Ｊ 201/00　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ 101/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｊ　5/24　ＣＥＺ
Ｂ３２Ｂ　3/18
Ｂ３２Ｂ　5/28　Ｚ
Ｃ０９Ｊ　7/02
Ｃ０９Ｊ 163/00
Ｃ０９Ｊ 201/00
Ｃ０８Ｌ 101:00

【誤訳訂正書】
【提出日】平成18年3月1日(2006.3.1)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２１】
本発明によるプレプレグを形成するためにファイバー層と組み合わされる樹脂はエポキシおよび／またはシアネートエステル樹脂、硬化剤、粘度調節剤および熱可塑性隅肉形成性粒子を含んでいる。まず、エポキシまたはシアネートエステル樹脂を粘度調節剤と混合して樹脂混合物を形成する。必要ならば、この混合物は粘度調節剤が完全に溶解されることを確実にするために加熱される。それから、この樹脂混合物に硬化剤と隅肉形成性粒子を添加する。最終樹脂混合物は隅肉形成性粒子が樹脂の中に溶解する温度より下に維持される。結果として、この段階では樹脂全体の中に不均一に混合されている隅肉形成性粒子は実質的度合には溶解されていないので、樹脂粘度を許容できないレベルにまで増加させない。樹脂混合物の粘度は重要である、何故ならば、それは樹脂がプレプレグを形成するためにファイバーの中に含浸されることができるようでなければならないからである。本明細書の目的のためには、それら元の粒子重量の少なくとも90重量％がそのままである粒子は実質的度合には溶解されていないと解釈される。元の粒子の10重量％未満しか樹脂の中に完全なまま残っていない場合には粒子は実質的に溶解されたと解釈される。